

2年 道徳 命あるものにやさしく接し、命を大切にする子供へ

櫻井 亜希子

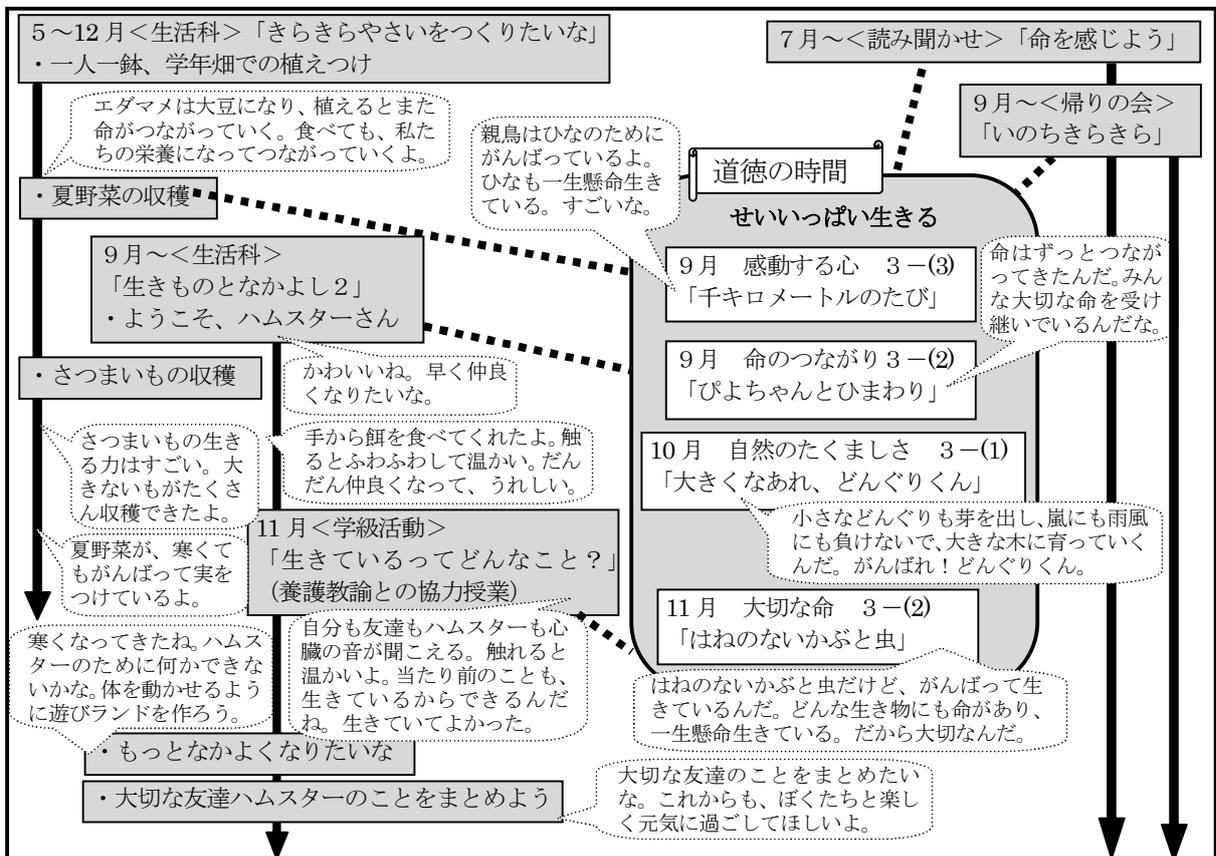
1 命あるものにやさしく接し、命を大切にする子供を目指して

2年生になった子供たちは、動植物の変容から季節を感じたり、見つけた生き物を捕まえたりして、動植物と触れ合うことを楽しんでいました。しかし、継続して世話をすることができず、命の大切さへの気づきが薄いように感じていた。そこで、小さな生き物にも命があることややさしく接することの大切さを実感させたいと考え、1学期は、動植物と直接触れ合う体験を多く積み、関連した資料を選んで話し合ったことにより、子供たちは、生き物に命があることを理解し、飼っている生き物の気持ちを考えて触れ合うようになってきた。

2学期は、命のつながりを感じることや生きていることの喜びやすばらしさに気づくことにより、命ある限り精一杯生きることの大切さを伝えたいと考え、以下の総合単元的な道徳学習を実践した。

2 総合単元的な道徳学習の流れと子供たちの変容

(1) 生活科と道徳の時間の関連を中心とした総合単元的な道徳学習の構想



(2) 学習活動の様子と子供たちの変容

生活科「きらきらやさいをつくりたいな」

1学期から野菜の栽培を続け、2学期に入って、収穫を喜び、食した。自分たちで育てたトマトのおいしさに感激したり、サツマイモの生命力の強さに驚いたりする声が聞かれた。エダマメを収穫したときには、1年生のころに育てたアサガオを想起し、大豆となった種子からまたたくさんのエダマメができて、命がつながっていくことを理解した。それとともに、エダマメを食べることにより、自分は動植物の命に支えられているのだと感じることができた。

命のつながりを感じて、命の大切さに気づかせたい。

道徳「ぴよちゃんとひまわり」

ねらい：命のつながりを感じ、命を大切にしようとする心情を育てる。

本資料と絵本「いのちのまつり～ヌチヌグスージ～」を使って話し合うことにより、一つの命がかけがえのないものであり、大切であることに気づかせたいと考えた。

終末に「いのちのまつり」を提示し、植物だけでなく、今ここにいる自分もたくさんの人から命を受け継いで生まれてきたことを子供たちに伝えた。



だれか一人でもいなかったら、ぼくは生まれてこなかった。生まれてきてよかった。

こんなに命がつながっていて、びっくりした。命のつながりって長いんだな。

<振り返りの場での発言>

- ・ ひまわりは、エダマメみたいに命がつながっていくけれど、ぴよちゃんとなかよしだったひまわりはひとりしかいないと思いました。
- ・ エダマメもひまわりもアサガオも人間もいのちがつながっているから、今の自分がいるんだな。
- ・ いのちはすてきだなと思います。いのちがあるから、いっぱい何でもできるんだと思いました。
- ・ いのちはやっぱり大切だと思います。いのちが一つしかないからです。

生きていることの喜びやすばらしさに気づかせたい。

心を耕す場の工夫

生活科「生きものとなかよし2」

2学期に入り、直接体の温かさや鼓動を感じることでできるハムスターの飼育を始めた。子供たちは、さらに生き物に愛着をもつようになった。そして、少しずつハムスターと仲良くなることができ、そのたびに大喜びしていた。



初めて触ったよ。

朝読書「命をテーマにした絵本の読み聞かせ」

道徳の時間や生活科等で学習したことと関連のある絵本を読み聞かせた。テーマや作品の底に流れる生命観、子供たちに伝えたい価値などを考慮して絵本を選び、様々な視点から描かれた命について、話し合ったり、感想を書いたりした。

学級活動・生活科「生きているってどういうこと？」

「命ってなあに」「生きているってどういうことか」と投げかけ、養護教諭の協力を得、生きている証探しをした。友達や自分、ハムスターの心音を聞いたり、体温や体の振動を感じたりすることで、生きている証を見つけることができた。そして、友達と遊ぶことができる、家族に会える、おいしい物を食べることができるなど、当たり前前のことも生きているからこそできることだと感じ、生きていることを実感できた。



生きているってすごいことなんだ。

自分が生きてよかったな。

ハムスターも小さい体で一生懸命生きているんだ。

命ある限り精一杯生きることの大切さに気づかせたい。

命あるものが一生懸命生きる姿を「いのちきらきら」とし、自分が見つけた命輝く瞬間を書き綴ったり、朝の会や帰りの会に紹介し合ったりした。

足が1本とれたカマキリが歩いている。ここにずっといたら餌も食べられないし、生きたいから、一生懸命歩いているんだね。

朝・帰りの会「いのちきらきら見つけ」

夏が終わったのに、トマトが実をつけている。寒いのに、生きようとがんばっているよ。

道徳の時間「はねのないかぶと虫」

ねらい：生命力のたくましさを感じるとともに命のかけがえのなさに気づき、生命あるものを大切にしようとする心情を育てる。

はねのないかぶと虫が必死で生きようとする姿に感動した主人公の気持ちに共感させることを通して、限りある生命を精一杯生きることのすばらしさを感じ、生命を大切にしたいと考える。

かぶと虫が一生懸命飛ぼうとがんばっている姿に共感し、子供たちは応援の声をかけていた。しかし、死んだ場面では「かわいそう」という発言が多く、命ある限り一生懸命生きることの大切さについては十分に深めることができなかった。低学年において、死について扱うことは、やや難しいように感じた。

終末には、一人一人が見つけた「いのちきらきら」を提示することにより、「いのちきらきら」を感じる心をみんながもっていることを伝えた。



＜終末に提示した「いのちきらきら」＞

以下は、生活科や道徳の時間における A 児と H 児の変容である。

生活科での様子

＜生き物に命があることに気づいていなかった H 児＞

H 児は、学習に遅れがみられ、教室でみんなと学習することが難しく、通級している。H 児は、生き物に興味があり、昆虫などをよく捕まえてきていた。しかし、ナイロン袋や虫かごに入れたまま放置するなど、生き物に命があることが理解できていないようだった。家庭でもそのことを憂慮し、繰り返し言い聞かせていた。



ハムスターを飼育し始めてから、H 児は、ハムスターの体温や体の振動などを心地よいと感じ、触れ合うことを好んだ。いつもハムスターを大事そうに両手でそっと抱えていた。

＜大切な生き物の死を受け止めることができなかった A 児＞

A 児は、生き物が大好きな子供である。A 児は、自分で釣り上げた片方のハサミがないザリガニにメロリーという名を付け、とてもかわいがっていたが、メロリーは夏の終わりに死んでしまった。A 児は「メロリーのことはあまり話したくない」というくらい悲しんでいた。

【道徳の時間「はねのないかぶと虫」の話し合いから】

T : 2学期の初め、動かなくなってしまったかぶと虫を見て、ぼくはどんなことを考えていたのでしょうか。消しゴムを手のひらに乗けてみて。動かないよね。そんなふうにならぬかぶと虫をじっと見つめ…。

＜ワークシート記入＞

C1 : かわいそう。

C2 : もっと生きたかった。

C3 : 天国で飛んでね。生きているときに飛べなかったから、がんばって飛んでね。

C4 : かぶと虫はもっと生きたかったんだろうな。

A 児 : まだ、がんばって生きてほしかった。

C5 : 前までは元気に生きていたのに。

C6 : 羽がなくてもがんばって、よく生きていてくれたね。
(中略)

T : 最後にこの男の子は「ありがとう」と言っているね。何をありがとうと言っているのかな。

C8 : 生きている間、えさとか食べてくれてありがとう。

C9 : 羽がないのに、えさとか食べてくれてありがとう。

C5 : 生きていてくれてありがとう。

H 児 : 守れなくてごめんね。

C10 : ぼくの手でがんばってくれて、ありがとう。
(中略)

※＜みんなが見つけた「いのちきらきら」を提示＞
(中略)

T : 今日の学習で心に残ったことを書きましょう。

C11 : かぶと虫は死んでかわいそうだったけれど、かぶと虫と一緒に生きてきて、楽しかったんだとわたしは思いました。

C3 : 命がないと何もできないから、命は大切にしないと... いけないと思いました。

道徳の時間の様子

いつもは、なかなか発言できない H 児が、「死なせてしまってかわいそう」と何度もつぶやき、「(命を) 守れなくてごめんね」と発言した。



他の子供が、今までがんばって生きていてくれたことへの感謝について発言をしているのに対し、H 児は今までの自分の行為を振り返って話している。

＜A 児のワークシート＞

かわいそう。かなしい。しなせなくなかったのに。きのうまで、元気にちぎれた羽をうごかしていたのに。まだ、がんばって生きていてほしかったな。



メロリーが死んだときのことを思い出して書いている。未だにメロリーを死なせてしまったと感じて気持ちが晴れないままの A 児の姿がうかがえる。

A 児の「いのちきらきら」

一つのはさみしかないのに、メロリーはあきらめないでがんばって一人でえさを食べようとしていたよ。

＜A 児のワークシート＞

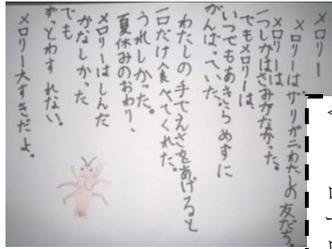
わたしが心にのこったことは、ずっと前にメロリーがしんだときに、「ごめんね」って心の中で言うと、メロリーも答えてくれたみたいでした。きょう、すこしかなしかったです。でも、メロリーははさみが一つしかないけれど、がんばっていました。メロリーに「ありがとう」と言いたいです。



資料中の「ありがとう」について話し合ったことや「いのちきらきら」として位置づけたことが心に残り、大好きなメロリーの死を受け止めつつある。

生活科での様子

<生き物に命があることに気づき、やさしく接するようになったH児>
 後に、H児は、生活科の時間に大好きなハムスターと仲良くなったことをアルバムにしてまとめたり、詩に表したりすることができた。H児はアルバムの最後に「これからもなかよくしたいな」と書いていた。H児は生き物に命があることを理解し、生き物に対してやさしい気持ちで接するようになった。



<大切な生き物の死を受け止めることができたA児>
 後に、A児は、生活科の時間にメロリーのことを詩に表した。「メロリーのことが大好きだったんだね。メロリーのことを大事に思って世話をしていたんだね。今もずっと覚えていてくれて、Aさんに出会ってメロリーもきっと幸せだったと思うよ」と声をかけると嬉しそうに微笑んでいた。

生活科「生きものとなかよし2」

「はねのないかぶと虫」の実践後、生活科の学習で、ある子供が「ハムスターは2～3年しか生きられないんだって。短い命だけどぼくたちと一緒にいてよかったと思ってほしい」と発言した。子供たちはハムスターを大切な友達と感じ始め、長生きしてほしい、命ある限りずっと元気で楽しく生きてほしいと願うようになった。そして、寒くなり運動不足になりがちなハムスターのためにダンボールで遊びランドを作ったり、寒くないように多めに巣材を入れて保温したりするなどハムスターの様子をいつも気かけながら、活動することができた。

また、仲良くなったハムスターのことを嬉しそうにアルバムにまとめたり、ハムスターをテーマにした絵本や歌を作ったりして、ハムスターとかかわり続ける姿が見られた。



ハムスターが喜んでくれるといいな。

とっても楽しそうだね。がんばって作ってよかった。

子供たちはこれらの総合単元的な道德学習を通して、生き物全てに命があること、一つ一つの命が大切だということ、そして「いのちきらきら」（命ある限り精一杯生きること）がすばらしいことだと気づき、命あるものにやさしく接し、命を大切にしようという心情を高めていくことができた。



命は何よりも大切だと思っ
 よ。命を大切にしたいな。

生きているってすごい
 な。生きているってうれ
 しいな。

植物やどんな小さな生き物
 にも命があって、みんな一
 生懸命生きているんだな。



3 解明されたこと

成果

- ・ 動植物の飼育栽培など直接体験を重視した生活科の学習と道德の時間との有機的な関連を図ることにより、命について真剣に考え、命を大切にしようという実践意欲を高めていくことができた。
- ・ 「いのちきらきら」見つけや命に関する本の読み聞かせなど、心を耕す場を工夫することで、命あるものが一生懸命生きている姿に価値を見いだしたり、命について多面的に考えたりすることができた。

今後の課題

- ・ 道德の時間の取り扱いについては、実践への意欲がさらに高まるように、発問を吟味したり、時間配分に配慮したりして、自分を見つめる時間を十分に取る必要がある。